

## 第5章 景観特性と市民意識からみた課題

### 5-1 自然・農業景観に関する課題

- 緑の豊かさ、近さが本市の大きな価値であるという価値観の共有を広げ、農地と里山の景観の価値への気づきを促すためのきっかけづくりや景観を感じる場づくりが必要です。
- 河川沿い緑道や遊歩道などの既存ストックを生かし、ウォーキングイベントへの参加を促すとともに、より楽しく歩けるような工夫が必要です。
- 農地と里山の維持について、農家、土地所有者だけでなく、幅広い市民参加によって問題解決していくことが必要です。
- 農業の維持、活用について、環境、食文化、健康といった多方面の切り口から考えていくことが必要です。

### 5-2 市街地景観に関する課題

- ごみの散乱がなく、きれいな景観を形成するため、また、景観に親しみ、気づきを促すための公共の場や機会づくりが必要です。
- 現状で良好な景観形成がされている民有地の緑化の維持や、取組が不足する地区における緑化推進が必要です。
- 駅前地区や広域幹線道路沿道など、本市を代表する「顔」となる地区における印象を形づくる景観形成が必要です。
- ハード整備や緑化とともに、人の賑わいの視点からの景観形成が必要です。
- ランドマークであり、人が集まる場である公共施設の維持管理や新改築に合わせた良好な景観形成への配慮が必要です。

### 5-3 歴史景観・文化的景観に関する課題

- 地理、歴史など、地域の景観の背景となる事物についての知的好奇心を持つ機会づくりが必要です。
- 豊かな景観資源が本市の価値であることを内外に発信し、また、多様な世代や属性の市民が価値観として共有していくことが必要です。
- 感性豊かな人間性を育成するという観点から、学校の取組と景観行政の連携強化が必要です。